

教学 IR に関する取り組み

東京都市大学では、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、機関決定等に資する提案又は情報の提供を行うため、教育開発機構に教学 IR センターを設置しています。本学が実施した各種調査の結果や分析事例等を紹介します。

■教育開発機構 ニュースレター

- ・ No.3 2019 年 9 月発行

[東京都市大学における教学 IR の取り組み—学生の成績評価分析結果について—](#)

- ・ No.5 2020 年 3 月発行 [各種調査結果から見える都市大の教育](#)

- ・ No.9 2021 年 4 月発行

[都市大における数理・データサイエンス教育の取り組み その3](#)

[～2020 年度の履修者数と講義前後アンケートの結果～](#)

- ・ No.12 2022 年 3 月発行

[シリーズ 知識集約型社会を支える人材育成事業](#)

[2021 年度「ひらめき」プログラムの総括](#)

- ・ No.15 2023 年 4 月発行 [教学 IR センターの 2022 年度を振り返って](#)

■学生実態調査（卒業予定者を含む）

[2022 年度](#) [2021 年度](#) [2020 年度](#) [2019 年度](#) [2018 年度](#)

■学生による授業評価アンケート

2022 年度前期 ([SC](#) [YC](#))

2021 年度前期 ([SC](#) [YC](#) [TC](#)) 2021 年度後期 ([SC](#) [YC](#) [TC](#))

2020 年度前期 ([SC](#) [YC](#) [TC](#)) 2020 年度後期 ([SC](#) [YC](#) [TC](#))

2019 年度前期 ([SC](#) [YC](#) [TC](#)) 2019 年度後期 ([SC](#) [YC](#) [TC](#))

2018 年度 ([SC](#) [YC](#) [TC](#))

■卒業生アンケート

[2021 年度](#) [2020 年度](#) [2019 年度](#) [2018 年度](#) [2017 年度](#) [2016 年度](#)

■求める人材・大学教育へのニーズ実態調査

[2022 年度](#) [2021 年度](#) [2020 年度](#)

■就職者数・進学者数

[卒業生の就職・進学動向](#) [求人企業件数](#) [主要就職先一覧](#) [業種別就職状況](#)
[大学院進学統計](#)

■[退学・除籍・留年者数（2022年度）](#)

■講義別成績統計表

授業科目ごとの評価の割合や平均 GP の比較等を行うことで、成績評価基準の平準化に資するようポータルサイトの文書ライブラリを通じて、学内向けに公開しています。

■科目担当者間や授業科目間の成績評価基準の平準化と厳格化に関する検証

科目担当者間や授業科目間の成績評価基準の平準化と厳格化の進捗状況を確認するため、成績評価ごとの人数・受講者等のデータを用いて、検証しています。

■課程を通じた英語プログラムに関する学修成果の把握

学士課程を通じた英語プログラムに関する学修成果を把握するため、入学時、1 年次末、3 年次の計 3 回、全学生に対して TOEIC の受験を義務付けています。この結果は、共通教育部外国語共通教育センターが、授業等教育活動の見直しに役立てるとともに、各学部・学科に情報を共有しています。

■出席確認システム

各期 2 回、全学部全学科で出席不良学生に対する状況調査を行っています。クラス担任が、出席不良学生の状況を把握し、指導の一助としています。

■大学院博士前期課程の先行履修生に関する基準の検証

学部生が大学院博士前期課程科目の先行履修を行うための基準の 1 つに成績基準 (f-GPA) があります。当該成績基準の妥当性について、検証を行っています。

■進級条件や履修上限単位数の妥当性に関する分析

単位修得状況等のデータを用いて、進級条件や履修上限単位数の妥当性に関する分析を行い、学部教務委員会における機関決定にあたって、その分析結果に基づく提案を行っています。

■成績分布に関する分析

全科目の成績分布を集計し、他大学の事例とともに教育開発機構運営会議・全学教務委員会に情報を提供しています。各科目との比較を行うことで、授業改善に繋がられるものと考え、提案を行っています。

教学 I R をきっかけとして行った本学の教学改善の具体的な事例

■授業評価アンケート

授業改善や学生の修学行動等の把握を目的として、授業評価アンケートを実施しています。各学科では、アンケート結果をもとに検討を行い、改善内容を学生にウェブ等でフィードバックしています。これを特に丁寧に行っている学科では、学生実態調査による教育満足度や後輩への推奨度が高い傾向にあり、教学改善の成果が表れました。

【改善事例の一例】

- 授業時間外に他の学生と協働で取り組む課題が多く、授業の空き時間が合わずに大変苦労したとの意見が多くを占めた科目では、学生が常に見通しを持てるよう毎回の課題提示を工夫するように授業運営を変更
- 低評価科目への対処や支援するために FD を実施し、授業づくりの理論や具体的なノウハウを提供
- 集計結果を用いて、組織的な教育改善活動及び各教員によるさらなる授業改善への取組に資することを目的とした顕彰（ベストレクチャー賞）の実施
- 「授業の内容を十分に理解できましたか」といった質問項目等で学生の理解度を確認し、これを更に向上させるため、講義演習形式の科目を増加させるように教育課程を変更

■学生実態調査

本学学生の学修時間・学修行動や、卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力に対する到達度自己評価の把握等を通じて、本学の教育活動に関する全学的な方針の策定、教育課程の適切性、学生の学修環境の質の向上に活用することを目的として、毎年「学生実態調査」を実施しています。

【改善事例の一例】

- 調査項目であるシラバスの活用度や1週あたりの授業外学習時間を向上させるため、シラバスに授業回毎の事前事後学習課題の記入欄を設けることで、量的・質的に適当な学習課題を提示できる環境を整備
- 2022年度の全学 FD・SD フォーラム第1部では、「学生の声を、どのように教育に活かすか - 魅力ある授業や学位プログラムづくりのために - 」と題して、学生実態調査アンケートの結果を共有し、データに基づいた教育改善策を議論

■学生カルテ

システムの導入により、履修状況・出席状況・成績等に基づいて、クラス担任等が修学上の指導を行う体制を構築。